

## **第 35 回宮崎海岸市民談義所(現地見学会) 議事要旨**

日時：平成 29 年 2 月 26 日(日)15:00～16:00

場所：一ツ葉有料道路一ツ葉 PA 内

参加者：

□市民：13 名

□宮崎海岸市民連携コーディネータ：

吉武教授(九州工業大学)

高田准教授(神戸高専)

□行政関係機関：

(国)宮崎河川国道事務所、宮崎海岸出張所

(県)河川課、自然環境課、中部農林振興局、中部港湾事務所

(市)佐土原総合支所

実施内容：

現地見学(動物園東、補助突堤②、補助突堤①)の後で、一ツ葉 PA 内で談義を行った。

事務局より開会の挨拶、国、県、市の出席者の紹介、本日の現地見学の簡単な振り返りを行った後、高田宮崎海岸市民連携コーディネータ(以下「コーディネータ」)の進行により議事が進められた。

※現地に向かうまでのバス車中で、事務局より「宮崎海岸の侵食対策の概要」、  
「第 34 回宮崎海岸市民談義所の振り返り」の説明及び「工事の実施状況、予定他」に関する報告を行った(質問等は特になかった)。

### **現地での談義 ～海岸を歩いた感想など～**

海岸を歩いた感想などを参加者が付箋紙に記入し、関連する感想・意見等をコーディネータがキーワード毎に分類し、談義した。

#### ○砂浜の現在の状況について

[参加者]

- ・普段、松林の間の歩道でウォーキングしている。砂浜がなくなって松林のところまで波がくるのを心配していたが、この事業により砂がとどまるということを知り、事業を早く進めてほしいと思った。また、松が元気のないところもあるので松も元気になって歩きやすいようになればよいと思った。

[参加者]

- ・ 昨年は緩傾斜護岸の前に波が直接あたっていたが、今日は砂浜があり、勾配も昨年より緩いように感じた。今日見た区間では砂がついてきている印象を受けた。

[参加者]

- ・ 補助突堤の北側は砂浜がついているが、南側は波に洗われているように見えた。

[事務局]

- ・ 宮崎海岸は全体的に北から南へ砂が動いている。この砂の動きを制御するために突堤を設置している。一方、突堤で砂を止めるとその南側は砂がつきにくい状態になると考えている。これに対しては養浜により適宜対応していく計画であり、それを進めているところである。

## ○養浜について

[参加者]

- ・ 関連情報であるが、宮崎空港の南側に位置する赤江浜も、今年は砂が少しついている状況である。

[参加者]

- ・ 養浜に道路工事や砂防工事が発生した粘性土などを使用することは難しいのか。今後、長い期間、養浜をやっていくことになると思うが、粘性土等を入れた場合にどのような影響があるかについてわかっていることがあれば教えてほしい。

[事務局]

- ・ シルト分では粒径が細かくてとどまりにくいことや、大きい粒径はウミガメの産卵にも影響がある可能性があることなどから、現在は砂を用いている。ただし、サンドパックスの陸側には粘性土等も使えると考えている。また、砂以外の土砂についても影響を確認しながら有効活用することを引き続き考えていきたい。

## ○突堤(補助突堤を含む)について

[参加者]

- ・ 以前の市民談義所で市民から提案されていた、投入した砂が抜け出しにくい透過構造の突堤についてはどう考えているか。

[事務局]

- ・短期かつ効果的に砂をためるために不透過構造を採用している。

[参加者]

- ・突堤 3 基で砂浜が回復するのか。いろいろな海岸工学の専門書で勉強しているが、例えば豊島修先生の著書の“実務者のための海岸工学”では「草を生やして一人前」と書かれている。しかし、今の現場では草が一本も生えていない。こういったことを担当技術者に指導してほしい。無駄な税金が使われているのではないか。私であれば 15km の海岸を 5 億円、半年の期間で砂浜を回復させることができる自信があるが、こういったことをしっかり議論してほしい。

[コーディネータ]

- ・植生が生える、ということについては、これまでも談義所で議論してきたが、草が生えたから砂がつくのではなく、砂浜が安定した結果として草が生える、ということを経験してきている。
- ・事業にかけているお金についても談義所、委員会、技術分科会、効果検証分科会で議論しながらステップアップの考え方で確認しながら進めてきており、決して無駄に税金が使われているわけではない。事業に対する応援と受け止めておきたい。
- ・宮崎海岸の事業は突堤だけではなく、養浜、埋設護岸をあわせて 3 点セットで砂浜を回復していく事業であることの説明を改めてお願いする。

[事務局]

- ・宮崎海岸では北から南に向かう砂の流れがあるため、突堤を整備し砂を制御することにより、南へ流出する土砂を減らし、また養浜により北から流入する土砂を増やすことで、砂浜を回復し背後地を守る計画である。また、埋設護岸は国土保全の観点から砂浜が回復するまでの期間に浜崖頂部が低下しないように設置しているところである。この 3 点セットで景観や利用も考えながら事業を進めている。

[参加者]

- ・宮崎海岸の事業費はいくらなのか。公開されていないのではないか。

[事務局]

- ・九州地方整備局のホームページで年度ごとの事業費を公開している。

## ○事業の効果および効果の見せ方について

### [参加者]

- ・突堤と補助突堤①の間の養浜の効果や評価の仕方、シミュレーションと実測の比較をしてほしい。また、今は冬場なので砂のつくときだと思うが一番厳しい夏場でどうなるのかということを考えている。

### [コーディネータ]

- ・現場見学の最中に、「目標浜幅 50m を達成できたところに目印をつけながら砂浜を歩くと想像しやすいのではないか」ということ提案いただいたので、本日のような現地見学会には取り入れてもいいと思う。

### [参加者]

- ・突堤の効果はどう評価していくのか。海は見えないことが多く、私は資格も持っているがすべてのことがわかるわけではない。新聞で読んだが、沈みつつある島もあるようである。責任は人間にあると思うが、そのツケを将来に回すようなことは無理だと思う。なので、みんなで談義して効果が出たところを少しずつ評価し、本当に正しいかどうかわからないかもしれないが、現時点でわかるところを評価していくのが良いと思う。

### [参加者]

- ・昨年の現地見学会時には、磯に棲むタカアシガニの死骸が打ち上げられていたことから、この海岸が磯のような環境であったと考えられる。今日は貝やゴミが打ちあがっていたため、磯のような環境から脱しつつあると考えられるが、砂浜に棲むカニは見られなかった。砂浜に棲むカニが見られるようになれば砂浜が回復したと評価できると考えている。

### [コーディネータ]

- ・事業の効果の見せ方については委員会等でも意見が出されており、みんなでいかにして情報を共有するかということが非常に重要であると思う。今後の談義のテーマのひとつであると感じているところである。どういった見せ方が良いかということや工夫の仕方について意見があれば今後の談義所でも意見を挙げてほしい。
- ・海岸で砂浜に棲むカニが見られたときには、談義所で情報を共有してほしい。

## ○浜山護岸について

### [参加者]

- ・今日見たら浜山護岸の前には 40m 程度の広い砂浜があった。養浜もしている

との説明であったが、突堤の区間には砂がほとんどなく、浜山護岸の前だけに砂浜があることにびっくりした。また、補助突堤①の南側にも養浜がされていたが、川からの土砂がなければ養浜した砂もいずれなくなるのではと思った。

**[事務局]**

- ・ 浜山護岸の南側は護岸が海側に少し出ているので、突堤のように砂を止める効果があると考えている。昨年も冬場には砂が少しついていたが、今年補助突堤②を設置したため、浜が広がったとも考えられる。突堤の効果については、継続的に効果検証で確認しながら事業を進めていきたい。

**[参加者]**

- ・ 災害復旧は原型復旧、ということは理解しているが、ちょっとした修正や変更はできるはずである。談義所で意見を聞きながらやっているのに、それが反映されていないことは残念に思った。

**[参加者]**

- ・ 今後砂浜が定常的に付いてくると、コンクリート護岸が砂浜の中で浮いてしまうようになると思うので、好ましくないのではないかと。

**[施設管理者]**

- ・ 砂がついた後にコンクリート護岸をどうするのか、ということについてはまだ議論をしていない。

**○事業の進め方について**

**[参加者]**

- ・ 突堤の予定は「状況によっては実施」となっている。事業はあと10年くらいと思うが、今のような漁業者等関係者との調整状況で今後突堤を造っていくことはできるのか。突堤は事業のかなめだと思うのでしっかりと取り組んでほしい。

**[事務局]**

- ・ 全体の計画は第Ⅰ期～第Ⅲ期までである。現在は計画の中の第Ⅰ期であり、「突堤3基に着手する」という計画である。第Ⅱ期は平成30年度からであり、それまでの間に効果・影響を確認し、環境・利用に支障を与えないようなことについて協議をしていく。

## ○海岸の表記について

### [参加者]

- ・新しくできた看板(一ツ葉 PA 内の看板)には一ツ葉 PA 付近の海岸名が「住吉海岸」と書かれているが直轄事業区間は「宮崎海岸」と呼ぶことで統一したように記憶している。海岸名表記が混在しているのではないか。

### [参加者]

- ・この海岸は白砂青松百選では「一ツ葉海岸」とされている。

### [事務局]

- ・国の事業区間を含む宮崎港北側から一ツ瀬川南側を「宮崎海岸」と呼んでいる。一方、地域でのいろいろな呼び名があり、また法定文書も出ているため、わかりやすく統一することを検討していきたい。

### [コーディネータ]

- ・海岸の呼び名は、市民、行政、学識者が議論していく上でも非常に重要な事項であると思うので、いろいろ意見をいただきながら議論していければよいと思う。

### [コーディネータ]

- ・過去に勉強会をやっていたときに、海岸の呼び名について多く議論がなされた。海岸事業としては「宮崎海岸」であるが、海岸の呼び名はそれぞれの思い入れがあるということと認識している。

## ○その他

### [参加者]

- ・突堤の周辺や動物園東ではサーフィンが盛んに行われているため、サーファーから砂のつき方などの情報も挙げてもらい、共有することが必要と思う。漁業の操業についても情報の共有が必要と思う。

### [コーディネータ]

- ・海岸に対していろいろなかわり方をしている人が一緒に海岸を歩いて談義することは非常に重要だと思うので、今後もそのような機会を設けてほしい。

### [参加者]

- ・突堤に砂がついても総合土砂管理が進んでいかなければ、養浜をし続けなければならなくなる。

**[事務局]**

- ・総合土砂管理はいろいろ難しい課題もあるが、長期的にはしっかりと考えていかなければならないと認識している。特に多岐に渡る関係者との調整も必要であり時間もかかると考えている。総合土砂管理の検討状況は今後も逐次、報告していく。

**～コーディネータのまとめ～**

**[コーディネータ]**

- ・本日は、波の音を聞きながらの屋外での談義であり、それぞれの意見や考えていることの共有がスムーズに行えたことが非常に良いと感じた。
- ・事業主体には効果的な見せ方についていろいろな工夫をしてもらい、海岸事業の進捗やこれからの海岸について議論・共有していくことが重要だと再認識した。

以 上

付箋紙に書いて頂いた市民の意見

分類	記載内容
砂浜	寝ていると波の音が聞こえます。砂の留まる方法に安全不安が減ってきます。松林の歩道の改善（影が増える）歩きやすくなることを楽しみにしております。
	砂の付き方を見守りたい。
	昨年1月の見学に比べ砂が増えた印象です。
	突堤の北側は養砂されている気がする。
養浜	突堤間の養浜を今後増やしていくのか？
	砂利や粘性土もどんどん養浜に使うのはまだ厳しいですか？（道路工事、砂防工事）
	突堤の南側が砂が流されている気がする。
突堤	入れた（入ってきた）砂が抜け出しにくい突堤の構造が必要では？
	突堤3基で砂が堆積するのか疑問である。砂の堆積には植生が自生する工法が必要
サンドバック	サンドバックの不等沈下は解決済みですか？
浜山護岸	熊本地震の災害復旧に関与していますが、原形復帰しかダメという中でいろいろ工夫して良いものをつくる努力をしている。
	1年ぶりに参加して県の災害復旧地点のパラペットがなくなっているのが工法を変えたのかと喜びましたが、更に高いパラペットを作るのですね。
	林務災害の防潮堤が異物となるような砂浜再生を願う。
	砂が40m位ついていたのはびっくり。50m復元の位置も教えてもらって頭の中に入れました。
流砂系	150m（現42m）の隣に50mの養浜中を見て川からの砂が無いので近い将来なくなるのでは…と憶測する。
事業の進め方	事業の見直し（資料）を見ると「状況によっては実施とあるが要の突堤がそんな状況では50mは無理だ。
	50m復活には、突堤が絶対必要であり、いかに早く漁業の方々の了承を得るかが課題。現在どうなっているのか。
	初めてとって見を見てこんなことをやっているんだなと感じました。今まで知らなかったので知れてよかったです。
	あと10年、国の工事の期間で300mの突堤が出来ますかね。無理っぽい。
効果・見せ方	本突堤と第1突堤の美浜効果検証してください。
	浜幅50mのラインをブイで示すと理解しやすい、ある測点間隔で
	突堤の効果をどう評価しますか？
	現場に来ることで砂浜の状況を自分の目で見る事が出来、良かったです。
	国の事業期間中に有料道路の安全性はどう評価できますか？
	本突堤、第1、第2突堤でのシミュレーションし実際の砂浜の比較を次の談義所で示して欲しい。
	風向きと強さ砂の流れに分析が必要と思いますか。
	今回の突堤3基で（①75m+②45m+③50m）どれくらいの効果が出るか推移を見守りたい。
	砂にカニが住みだすと評価できる
沖は波がなさそうなのに岸では砕けて砂が動いていく。砕け方も北からもあれば南からもあり簡単に説明できない難しさ。	
その他	立ふだを見ると宮崎海岸と住吉海岸が混在している。